

葛西会長 国鉄改革を一人でやったの？ 改革 あれ？ これ？

◇ 6

2011. 11. 4

JR東海労東二運分会

JR東海が発足してもう少しで25年です

社員研修では教わるため、国鉄改革・国鉄分割民営化を知っていると思います。しかし、余剰人員対策（派遣、退職前提の休職、復職前提の休職）や広域異動を知らない人はいるかもしれません。1987年4月1日にJR7社が発足する前段の国鉄職員が家族や仕事を守るための取り組みです。

国鉄本社で「改革」を主導したのが現在の葛西会長です。2010年2月、雑誌に「頼れる人はここが違う 有名社長のわが本音」という記事がありました。

その中で葛西会長は、「人を動かす極意」として「人がついてくる大きな理由は、この人についていけば必ず戦いに勝てるという信頼感なんです」と言いました。

つまり、国鉄改革で言うと、俺に「人を動かす極意」があったから改革が成功したと言っているのです。自分一人で改革を実現したと言わんばかりです。何という、傲慢でしょうか。職員や家族の血のにじむような努力と決断を全く無視しています。

その葛西会長が今度は、日本の「改革」です。産経新聞『「改革」あれこれ』で5月には「原子力を利用する以上、リスクを承知のうえで、それを克服・制御する国民的な覚悟が必要」、と言っています。この考



東電経営者は座布団に

えを福島に行って大きな声で訴えてはどうでしょうか。被ばくにおびえながら作業をしている皆さんに言ってみてはどうでしょうか。

10月には、中国嫌いを露骨に出して「太平洋の西端に位置し日米同盟にその生存と独立を依存する日本の選択は、このTPPに加わり、新たな枠組みの中で経済の安定基盤をつかみ取る以外にはない」「日米同盟の揺るぎなさを示したときに初めて中国は日本に敬意を払い分別ある良き隣人として振る舞うことになる」と言っています。TPPに反対している市町村で演説してみてもどうですか。

これら全て、「改革」は俺に任せろ。俺について来れば中国にも必ず勝てる。そのためには、覚悟して原発を稼働させて日本の活路をつくれ。リニアで経済の立て直しを、と言っているのと同じです。改革。つまり、国民や社員を無視したり犠牲にしたのでは、より良いものに作りかえることは出来ません。

みなさん！ あれが改革？ これが改革？と、疑問に思いませんか？

「高すぎて 見えぬ下 天守閣」 C D 頑 爺